

第3回

学校教育におけるキャリア教育 シンポジウム

— 高校における実践と課題 —

学校教育におけるキャリア教育は、学校教育関係者のみの取り組みでなく、家庭、地域、企業など広く社会の理解と協力・支援が必要です。この観点から第1回は昨年12月、「学校教育におけるキャリア教育」—今、なぜキャリア教育か—をテーマに開催しました。第2回は、昨年8月、普通科高校でのキャリア教育の推進に重点を置き、実践校4校の発表を分科会方式で行いました。

今年度は、基調講演、実践校の発表、各分野の方々による討論で構成しました。実践発表では、取り組みの背景・要因（学校・生徒）、取り組みの実際など、具体的な状況を発表していただきます。討論では先の実践発表を材料に各分野の立場から意見を出し合い、参加者を交えて討論を行い参加者の研修の場にしたいと考えています。

日時 **2008年8月5日(火)**
13:00~17:30 (受付開始 12:30)

場所 **神奈川大学 横浜キャンパス**
セレストホール (16号館)
〒221-8686 横浜市神奈川区六角橋 3-27-1

申込方法 裏面の参加申込書に必要事項をご記入の上、必ずFAXにてお申込ください。

申込期日 **2008年7月28日(月)** 参加費無料
定員 **350人** (ただし、定員になり次第締め切らせていただきます。)
*プログラム終了後、講師・発表者・パネリスト・参加者による情報交換会を行います。(会費1,000円)

開会挨拶

13:00 神奈川大学高大連携協議会 会長 中島 三千男 (神奈川大学長)

セッション1 基調講演

演題: 若者が社会で生き生きと活躍するための人材育成の在り方とは
~人間力を育むための手がかり: 社会人基礎力~

講師: 守本 憲弘 (経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策担当参事官)

セッション2 実践発表

A 「総合的な学習の時間」でのキャリア教育への取り組み
—ジョブシャドウによる企業での体験学習—

発表者 / 東京都立豊島高等学校

B 横浜清陵総合高校のキャリア教育 —特色科目を軸にして—

発表者 / 神奈川県立横浜清陵総合高等学校

C 重層的キャリア教育 —地域のさまざまな資源を生かして—

発表者 / 神奈川県立田奈高等学校

※実践発表へのコメント 新井 立夫
(文教大学 情報学部 経営情報学科 専任講師)

セッション3 パネルディスカッション

政策・行政、高校教育、大学教育、企業、保護者の各分野の立場からディスカッションを行います。

コーディネーター / 萩原 信一 (財団法人 日本進路指導協会 理事)
パネリスト

■ 政策・行政の立場から

守本 憲弘 (経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策担当参事官)

■ 高校教育現場の立場から

新井 立夫 (文教大学 情報学部 経営情報学科 専任講師、元高等学校教員)

■ 大学教育現場の立場から

西久保 忠臣 (神奈川大学 工学部物質生命化学科 教授)

■ 企業の立場から

牧田 和久 (日本経団連 教育問題委員会委員、
(株)ベネッセコーポレーション 教育研究開発本部 研究推進担当部長)

■ 保護者の立場から

飯塚 香奈 (主婦)

閉会挨拶

17:30 神奈川大学高大連携協議会
副議長 岩本 満敏 (神奈川県立秦野高等学校長)

総司会 / 神奈川大学高大連携協議会 副議長 岩佐 洋子
(神奈川県立横須賀光明高等学校長)

生きと活躍するための人材育成の在り方とは

～人間力を育むための手がかり：社会人基礎力～

講師：守本 憲弘

(経済産業省 経済産業政策局 産業人材政策担当参事官)

我が国は工業製品等を輸出して獲得した外貨でエネルギーや食料品等を輸入しているため、今後も産業競争力を維持・向上させていくことが不可欠です。

近年、社会を取り巻く環境が激変する中、職場や地域社会ではコミュニケーション能力や実行力などの力が強く求められるようになりました。また、社会環境の変化により、家庭や地域社会における教育力の低下が指摘される中、こうした力を身につけ、社会で生き生きと活躍する若者を育成していくためには、「地域総がかりでの教育」を実現することが重要です。

ここでは、こうした教育の実現に向け、大学や高等学校等における「社会人基礎力」の育成やキャリア教育の実践事例、産学の対話と行動を促進する取組（産学人材育成パートナーシップ）等について御紹介するとともに、こうした取組を通じて目指す人材育成の在り方についてお話しさせていただきます。

実践発表 A

「総合的な学習の時間」でのキャリア教育への取り組み
—ジョブシャドウによる企業での体験学習—

東京都立豊島高等学校
〒177-0044 東京都豊島区千早 4-9-21
Tel : 03-3958-0121
校長 : 島田 悦郎
発表者 : 教諭 丑久保 英世
設置学科 : 普通科
生徒数 : 712 人 (平成 20 年度)
URL : <http://www.toshima-h.metro.tokyo.jp>

本校では、進路指導部を中心に「総合的な学習の時間」を計画・実施している。ほとんどの生徒が進学を希望する普通高校であるが、3年間にわたる「総合的な学習の時間」を利用して、各学年段階を追って職業や進路選択を考えるように計画されており、その中で、この「ジョブシャドウ」は一年次後半の選択講座として開講されるもので、唯一企業での体験学習を取り入れた講座である。早い時期に、実社会に触れることで、自分たちの将来の職業をより現実的なものとしてとらえることができ、大学等へ進学するにしても、将来の職業を見据えた学部・学科の選択がより可能になると考えている。

実践発表 B

横浜清陵総合高校のキャリア教育
—特色科目を軸にして—

神奈川県立横浜清陵総合高等学校
〒232-0007 横浜市南区清水ヶ丘 41
Tel : 045-242-1927
校長 : 石川 裕二
発表者 : 総括教諭 長瀬 右文 総合学科推進グループ
生徒発表
(A) 「産業社会と人間」 成果発表/テーマ 「越えられない壁」
2 年次 齋藤 美桜、田中 礼美、深澤 絵里
(B) 「コミュニケーション」 成果発表/テーマ 「人×人=コミュニケーション」
3 年次 磯崎 遼平、高橋 俊、松井 公德
(C) 課題研究「探求」 成果発表/テーマ 「大船駅西口のバリアフリーについて」
卒業生 (H20.3 月卒) 飯塚 陽生
設置学科 : 総合学科
生徒数 : 707 人 (平成 20 年度)
URL : <http://www.yokohamaseiryosogo-ih.pen-kanagawa.ed.jp>

本校では、総合学科の原則履修科目である「産業社会と人間」(1 年次)、社会生活の基礎となる人間関係、コミュニケーション能力の育成を図る「コミュニケーション」(2 年次)、興味・関心や進路に応じて設定した課題について、知識や技能の深化、総合化を図る総学「視点」(2 年次)・課題研究「探求」(3 年次)の 4 科目を必修履修科目に位置づけてキャリア教育の軸に据えている。

さらに、インターンシップ等の体験学習を重視し地元経済界に協力を仰いで、こうした活動を単位認定に結びつけるなど学びのフィールドを広く提供し、社会との関わりの中で自己の生き方・在り方を考えさせる取り組みを実践している。

実践発表 C

重層的キャリア教育
—地域のさまざまな資源を生かして—

神奈川県立田奈高等学校
〒227-0034 横浜市青葉区桂台 2-39-2
Tel : 045-962-3135
校長 : 中田 正敏
発表者 : 研究開発グループ 吉田 美穂
設置学科 : 普通科
生徒数 : 663 人 (平成 20 年度)
URL : <http://www.tana-h.pen-kanagawa.ed.jp/>

事業所団体、卒業生、大学など地域のさまざまな資源を生かし、生徒自身の体験や話し合いを大切にきたキャリア教育プログラムを実施している。

1996 年度から独自科目として「進路研究」を設置し、その内容を「総合的な学習の時間」に引き継いできた。2006 年度から、1 年生全員が 1 日の職場見学体験に参加。マナー研修や職業インタビューなども組み込んでいる。2007 年度から 2 年生の選択講座としてインターンシップや専門学校実習を実施。卒業生の職場を訪問する講座や地域の老人介護施設実習も合わせると、本年度は 2 年生 219 人中 81 人が、体験的キャリア教育に参加する。これらの実習では、地域の事業所団体や卒業生の協力が不可欠である。この他、中央大学と連携し、ケーススタディを中心としたプログラムを実施している。キャリア教育を進める校内体制は、総合教科会→研究開発グループ→キャリア教育コーディネーターを核とする体制へと発展してきている。